

Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上協議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

Vol.24

地域福祉活動計画団体ヒアリング実施報告・五

二十一号に引き続き団体にアリングの様子を報告していきます。



うしお会の様子；うしお会が立上げた作業所（現ライフサポート三浦）の2階にて実施しました。

九月十八日 三浦地域精神衛生 家族会

うしお会（七名）

●会の成り立ち、組織構成、活動内容

・昭和六十一年四月に保健所のサポートで上げ、市から補助金をもらい運営。三年前に会員の高齢化を理由に市の補助金を辞退し、現在は会員の寄付金を利用し活動している。
・会員十五名（当初は四十名）。会員が高齢化している。月一回の集まりに参加できない状態の方や亡くなる方もいる。代表一名、会員二名。

・活動内容は月一回の集まり。精神疾患を抱

えた子供を持つ家族が集まり情報交換。年一回のみかん狩り。保健所主催の勉強会。
・三年前までは神奈川県家族会連合にも参加していたが、役を持つことや会議に行くことが会員の高齢化により大変だったため脱退。

・入会のきっかけは「病院で保健所を紹介され、保健所からうしお会を紹介された。」というケースが多い。「以前住んでいた市でも家族会に入っていて三浦に引っ越してきたからは福祉課にきて入会。」「子供がライフサポート三浦に通うようになって入会を知った。」

・入会の動機は「子供の障害について、関わり方について勉強するため。」「子供の将来の事などの情報を得るため。」

●活動してよかったこと

・同じ障害を抱える子供をもつ親として心が通い合う。ほっとできる場である。絆が強い。

・他人には分かってもらえないこともこの会では理解してもらえ。悩んでいるのは自分だけではない。

・子供の障害を理解をすることが出来るようになった。

・ライフサポート三浦の方では所長に相談

し、就労につながった。

●活動していて悩んでいること

・会員の高齢化。新しい人がほとんど入っていない。

・三浦市に精神障害者のグループホームがないので親亡き後のことが心配。

・行政はなにもやってくれないので、当事者として親たちが運動をしてグループホームを作らないといけないというが、自分たちは高齢化しているし、立ち上げる資金や体力がない。

・市に訴えるためにどのように運動したらいいのか？

●生活の困りごと

▼本人の生活について

・親がいなくなったら家賃などの支払いなどする人がいない、お金の問題、本人できない。

・本人の一人暮らしが難しい。親がいなくなつて福井記念病院に入院した人もいる。

・本人の一人暮らしには条件が三つある
・そうで、お金の管理、服薬の管理、あともうひとつは自分から周囲にSOSが出せかなどがあり難しい。

・本人の障害年金では家賃や医療費など足りず生活できない。

・地域との付き合いは苦手。

・地域に障害への理解がない、バカにされる。「病気じゃないのでは？」と理解し

てもらえない。

・もし一人暮らしになったらごみの出し方など非難されるのではないかという不安。

・友達がいらない。繰り返しメールや電話をしてしまうなど上手に付き合えず嫌われてしまう。

・せっかく作業所があるので子供にもつと通ってほしいのだが最近では通えていない。

▼地域の困りごと

・近所の付き合いほとんどない。マンションなどセキュリティなどもきっちりしていて親睦がはかれない。

・近所で笑いあっていることもない。

・三浦の古い人となじめない。

・回覧板も留守だと玄関のドアノブにつけておくだけで付き合いがない。

・日中も学生の登下校時間が過ぎると静か過ぎる。

・横浜や大阪は福祉が進んでいるようだが三浦市は進んでいない。

●今後望むこと

・ケアホーム、グループホームがほしい。
・精神障害者の医療費の無料化について、もう少し県内の大部分の市では精神障害者(一級)の精神科以外の病院受診費が無料になるのだが、三浦市は財政上の問題で無料にならないらしい。三浦市もそうしてほしい。年金月六万五千円では医療費を出すのは難しい。二級にもそうし

てほしい。

・もう少しまわりの人にあたたかい目で見てほしい。

・にぎやかな昔みたいな地域になってほしい。

九月十九日 石渡さん (一名)

三浦市内に在住で「よこすかダウン症児者の会つくし会」の会長として活動されている石渡さんからお話を伺いました。

●会の成り立ち、組織構成、活動内容

・一九八六年ダウン児の本人と親の会として発足。本人と母親が主体となり本人たちが小さかったので療育活動として赤ちゃん体操など。

・参加した動機は、こども医療センターからの紹介。長く会で活動していた妻が八年前に他界し、自分の定年退職を機に今までのお礼も込めて活動に参加して四年目(会長役を二年)。勉強会には以前から参加していたのでほかの母親たちとも顔見知りだった。

・組織構成は、ダウン症児者とその家族。現在三十一名(社会人十七名、中高生十二名、幼児二名)。一から四十五歳。多いときは六十名在籍していた
※三浦市在住者二名。

・運営委員会として会長、副会長、会計、書記、グループリーダーで計十名。

他親睦委員会、編集委員会、学習委員会。フェイスブックを活用するなど若い母親たちの情報発信力がすごい。

・年会費は一家族五千円。横須賀市社協からの補助金、勉強会参加費。

・活動内容は社会人、中高生、幼児の各グループが月一回活動。会報年四回(現在百二十二号)。総会。

・大きいイベントは、クリスマス会、食事会、城ヶ島で芋ほり。

・学習会を年一回(十一月十六日開催)企画。例会で作業所見学会などの勉強会もある。

・活動拠点は横須賀市の市民活動サポートセンター。

●活動してよかったこと

・会で早期療育ができること。ダウン症は出産後一、二ヶ月で障害が分かるため早期療育に取り組める。
・同じ障害の母同士、障害を受容し合える。

・子供同士の付き合いができ、社会人になっても子供同士が付き合い合っている関係を持てる。

・他の年上の子供の様子を見て自分の子の成長に安心できる。

●活動していて悩んでいること

・出生前診断について会としてどう訴えていくか。障害があることを医師から「残念ながら」と伝えられ、不幸な子と

して説明されている。医療の分野で福祉が理解されていない現実がある。

●生活の困りごと

・親亡き後のことが心配。肢体不自由の人は自分で判断が出来るからよいが、精神、知的の障害があると自己判断難しい。

・現在は横須賀の作業所までの通所に、横須賀のガイドヘルパーを買物支援で週三回利用しているが自宅までは距離が遠いため時間数の問題で三浦海岸駅から利用している。

・将来は兄弟に見てもらいたい気持ちもあるが、成年後見を使いながら安心安全に暮らせる体制がほしいが、後見人の使いこみなどの事件が多く安心できない。

・災害のときの不安。作業所への通所中に災害が起きたときのことが心配。

また一般の避難所はいることが難しいと思うので福祉避難所を利用したい。

・子供の就職時、三浦市内には養護学校からの実習生を受け入れている作業所や施設がなかったため市内での就労へ結びつかなかった。

石渡さんの報告は次号に続きます

編集後記

障害のあるお子さんを持つ家族の切実な困りごとを地域の皆さんにもっとわかり伝えていきたいです。(齋田)